

Q.1

絵本『みえるとか みえないとか』（アリス館）を題材にダンス作品をつくろうと思ったきっかけを教えてください。

A. もともとCHAIROIPLINで文学作品などからダンスをつくることをやっていて、今回は絵本でやってみようかと。僕が好きな作家さんだということはもちろんありますが『みえるとか みえないとか』は障害が絡んでいる深い話なんですけれども、誰が読んでも楽しめる壁がないような内容だなと思いましたし、問題提起がすごく可愛らしく描かれているんですね。あと僕は妖怪とか宇宙人みたいなワクワクするものが好きだということもあり、とにかく作品に惹かれてやることにしました。

Q.2

絵本からダンスを立ち上げる面白さや難しさはありましたか？

A. ヨシタケさんの絵はすごくいい意味で緩くて、そこまでアクティブではないので動きをつくるのは大変でした。ダンス作品としてアクティブでありながら、どうしてもヨシタケさんの世界観を壊さずにより可愛らしく、優しく、いろんな人に届けられるか、振付や演出でどう立体的にしていけるのかは難しかったですね。

面白かったのは衣装で、絵本に登場する三つ目の宇宙人を完全な着ぐるみだと動けないし普通かなと思い、手を目に見立ててまばたきのように動かすっていうことをやったんです。アイデアを思いついた時はすごくワクワクしました。

純粋に「違い」を楽しんでもらいたい



おどる絵本 みえるとか みえないとか スズキ拓朗インタビュー

Q.3

原作ではさまざまな個性の違いを取り上げていますが、ご自身が周りと違いを感じた経験はありますか？

A. 僕自身も少し障害を持っていて、ちょっと手の握力がないんです。高校時代にバスケットをしていたんですけど急にドリブルができなくなっちゃって。その時は挫折みたいなものを感じました。今ダンスをやっている中で、できない振り付けや動きもあるんですけど、あえてできない動きの動線を通して、他の人とちょっと違う動きが生まれるんじゃないかなってプラスに考えるようになりました。一般的にはマイナスと取られる部分を、逆に個性としてプラスに捉えて表現するのはやっぱり何か可能性があるなと思っているので、いろんな悩みを抱えている人が「それは自分のいい部分でもあるんじゃないか」と思ってくれたらいいなと思います。いつも舞台に立っています。

人気絵本作家 ヨシタケシンスケの絵本の世界が色彩豊かな舞台作品になって北九州にやってきます。2024年の初演で好評を博したおどる絵本『みえるとか みえないとか』の再演を前に、振付・構成・演出を務めるスズキ拓朗さんにお話を聞きました。

Information

2026年8月8日(土) 14:00

J:COM北九州芸術劇場 中劇場

【振付・構成・演出】スズキ拓朗
【原作】ヨシタケシンスケ／伊藤亜紗
『みえるとか みえないとか』（アリス館）
【出演】スズキ拓朗、小林らら
青井想（以上CHAIROIPLIN）
稲葉由佳利、鳥越勇作
山下直哉、オクダサトシ
【音楽・演奏】清水ゆり

チケット残りわずか！

詳細はこちら▼



Q.4

子どもと大人にそれぞれどう届いてほしいですか？

A. 子どもたちには純粋に「違い」というものを楽しんでもらいたいです。あの人の動きなんか面白いねとか、あの衣装着たいなとか、単純に何の抵抗もなく興味を持ってもらえたらなと思っています。大人の方が違いということに臆病になる気がしていて、子どもたちはあまり気にせず飛び越えられるんですよね。

大人に関しては、子どもから「どうして宇宙人と喋っているんだろう？」とか「あの人はどんな人なの？」と聞かれても、多分答えられないと思うんですね。質問された時になんて答えてあげるのがいいんだろうって考えるきっかけになる作品だと思うので、ぜひ間違ってもいいので何かを答えるっていう会話を生む、そういうコミュニケーションを家庭に持ち込んでほしいなと思います。

